

## 巻頭言「種の絶滅とレッドデータブック」

長野県環境保全研究所 主任研究員 須賀 丈

1992年、リオデジャネイロ。地球サミットの各国代表の前で、当時12歳の少女、セヴァン・スズキは訴えました。

「どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。」

「私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです 50 億以上の人間からなる大家族。いいえ、じつは 3 千万種類の生物からなる大家族です。」

地球のすべての生物は約 40 億年前の共通の祖先に由来します。そして今、その多くが人間の手で絶滅の縁に追いやられています。その絶滅の速度は、過去の化石からわかる平均の約 1000 倍とされています。これらの生物やその遺伝子、それらがつくる生態系は、衣食住から経済・文化まで、人間生活にはかりしれない恵みを太古から今にいたるまでもたらしてきました。これらの恵みを未来の世代に健全な姿で引き継ぐことが大人たちの責務です。

すべての生物種には、地球環境と進化の歴史が生み出した固有の存在としての価値があります。またこのうちどのような種がどのような原因で滅びつつあるのかを知ることは、人間に恵みをもたらす生態系の健全さがどのように損なわれているかを知る有力な指標となります。このようなことから、絶滅のおそれのある野生動植物をリストアップしたレッドデータブックがつけられています。

絶滅は、地球上で最後の 1 個体がいなくなることだけが問題なわけではありません。ほかの地域に残っていても、ある地域からいなくなれば、それはその場所の生態系の健全さがそれだけ損なわれたことを示しています。このようなことから、レッドデータブックは各国・各都道府県など、さまざまなレベルでつけられています。

たとえば、飯山に生き残っているオオルリシジミやギフチョウは、長野県と国の双方のレッドデータブックに載っています。これらの蝶は、世界的な絶滅危惧種でもあります。これらがいることで、かつての地球の健全な生態系のかけらが飯山に残っていることがわかります。

オオルリシジミは草地、ギフチョウは雑木林の明るい林床と、どちらもひとが適度に手を入れて維持してきた環境を生息場所としています。その意味で、自然とひとの営みのバランスがとれていたかつての里山の生態系の姿を物語る存在といえるでしょう。

レッドデータブックにとっての究極のゴールは、生態系の健全さを回復し、回復した種を絶滅危惧種のリストから消していくことです。セヴァン・スズキが代弁した未来の世代の声にどう答えるか。それが今、問われています。

※ 当紙前号でも、お知らせしましたが、北信濃にはオオルリシジミの他にも、レッドデータブックに記載されているような多くの絶滅危惧種が生息しています。

当地域で見られる、一般にはほとんど知られていないような希少な生きものたちを、今後当紙で紹介していきたいと思います。まずは、第一弾！

## メススジゲンゴロウ

分類：甲虫目 ゲンゴロウ科

学名：*Acilius japonicus*

レッドリスト：長野県・絶滅危惧Ⅰ類、環境省・未該当

【特徴（長野県版レッドデータブックより転記）】

体長14～17.3mm。体形は扁平で幅広い卵型。背面は淡黄褐色で黒色横帯紋をもち、上翅は灰褐色、腹面は黒色、全身に弱い光沢がある。メス上翅には8本の縦隆起条があり、その間は疎毛を装う。日本固有種。北海道と本州北東部のみに分布。成虫で越冬。池沼にいて、夏季は日中も活発。幼虫も成虫も小型水生動物を捕食する。

【生息環境（長野県版レッドデータブックより転記）】

原生林や良好な二次林に囲まれた山地から亜高山の池沼。

【絶滅危惧の要因等（長野県版レッドデータブックより転記）】

観光開発による池沼の水質汚染。

【特記事項（長野県版レッドデータブックより転記）】

本県の記録は分布域の最南端。どこでも産地は局限され、県内では個体数も少ない。隣接の富山県では絶滅危惧Ⅱ類に選定、本県への分布依存度は高い。



メススジゲンゴロウ ♂



メススジゲンゴロウ ♀

（♀の上翅には筋状の隆起が見られる）

上の写真は、本年10月、市内黒岩山周辺を散策中、ブナ林に囲まれる池で確認したものを撮影しました。定期的に池の水は冷たく澄んでおり、池底に堆積した落ち葉に紛れ込んでいましたが、まとまった数が見られました。

飯山市内在住の昆虫研究家・関口信夫先生によると、「産地は局限されるものの、一般に生息地での個体数は多く、牧の小池でも多く見られた。（ホームページ：「奥信濃の虫たち」より）」とのことでした。

この池では、他にオオコオイムシ、クロサンショウウオなどが確認されています。

近年、湖や池沼にウシガエル、オオクチバスなどの外来生物が侵入し、その貪欲な捕食性により、生態系への悪影響が懸念されています。地域水系の生態系をふまえ、在来の魚類・水生昆虫類に対して絶滅要因となる外来魚のむやみな放流は、厳に謹んでもらいたいものです！

## 活動報告など

### ・北信濃の里山を保全活用する会・総会開催とオオルリシジミ生息地環境整備の実施

11月26日（土）、飯山市公民館において当会の総会が、会員ほか25名が参加して行われました。今回は臨時総会という位置づけで、5月に行われた北信濃里山シンポジウム以降、会員数も増え、会則や活動体制などを再確認いただくために開催しました。

開会后、井田会長、飯山市教育委員会・高橋学習支援課長からあいさつをいただき、事務局から当会の設立過程と本年の活動概要など、これまでの経過報告の説明が行われました。その後、議事に移り、会員の坪井さんに議長を務めていただき、各議案を審議しました。議案は、「会則」、「役員」、「今後の活動計画」、「会計中間報告」について事務局から提案され、会則には追加事項など一部改正がありましたが、出席者の方々から承認いただきました。活動計画に対しては観察会への要望など意見が出され、できるだけ多くの市民の方々に参加できるように方法など検討したいと考えます。



井田会長あいさつ

続いて行われた意見交換では、当会オオルリシジミ保護・増殖部会長の田下さんから、本年のオオルリシジミの発生状況と市内で見られた注目すべき昆虫について話題提供されました。

本年度のオオルリシジミの状況は、これまで当連絡紙でもお伝えしましたが、絶滅が心配された昨年よりは発生量が幾分か多かったものの、環境整備やパトロールなど保護対策が必要な状況です。

また、注目すべき昆虫では温暖化の影響により北上する昆虫たち（クロメンカタスズメなど）、田下さんが飯山市内で確認したこれまで記録が少ないバッタ類（セグロイナゴ、ショウリョウバッタモドキ）、県内では飯山市戸狩にしか過去に記録がなく、再確認が必要なオオオカメコオロギについて話されました。



セグロイナゴ

意見交換は、会員の方々が「こんな生きもの見つけた！」など情報交換しながら、北信濃の生きものを記録できるようになれば・・・とまとめられました。

事務局では、会員の方々の観察記録をまとめた「北信濃里山年報」の発行を考えています。希少種だけではなく、普通に見られる生きものの動静も含め、気軽に投稿できるようなものにしたいと思います。

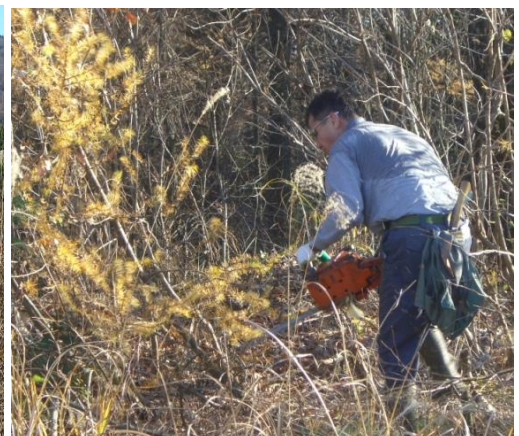
午後は、昼食をはさみ（参加者でキノコ汁をいただきました・・・準備いただいた「飯山市ふるさと館」の藤澤さん、ありがとうございます・・・ごちそうさまでした。）、オオルリシジミ生息地の環境整備が行われました。

例年、この時期は初雪が観測される頃でもあり、天候や積雪も心配されましたが、好天に恵まれ灌木伐採の作業もはかどりました。人手・機械がそろそろ頼もしい限りです・・・。

保護区域設営のために張り巡らされたロープも撤去して、来シーズンに備えます。

作業は15時過ぎに終了、やり残した箇所は、また来春、続きを行いたいと思います。

参加されたみなさま、お疲れさまでした。



刈り払い・伐採作業：「支援金」で調達した新品の機械は調子よかったです。

なお、3月に定期総会を開催する予定ですが、そこで来年度の活動計画などをお諮りしたいと思います。

## ・戸狩スキー場におけるカヤ刈りの実施

11月5日(土)、戸狩スキー場とん平において、古民家修復などを請け負う会社・(株)修景事業と提携して、自生するススキの刈り取り(カヤ刈り)を行いました。オオルリシジミが生息する草原環境の維持・創出を図るためには、それを経済面から支えることも重要で、かやぶき屋根の原材料となるカヤ=草地資源の活用を考えています。オオルリシジミ保護活動継続のためには、何らかの「ごほうび」が必要ですし・・・。

修景事業の西山さんによると、カヤの国内最大産地は静岡県御殿場市(富士山裾野・自衛隊演習地)ですが、他に大きな産地は少なく(国内に残された草原環境は少ない!)、文化財維持などの需要に対して供給は不足気味、良質のものであれば高価格で買い取っていただけるそうです。ただし、採取するススキは完全に立ち枯れたものが良く、茎に青みが残るものは刈り取っても強度不足など品質に問題があるとのこと。

今年の秋は比較的暖かく、ススキの枯れ込みが遅れたため、適当なものを選びながらの作業でしたが、トラックいっぱいのカヤを収穫できました。刈り取り時期は枯れ込みと積雪期をふまえ、今後の課題となりそうです。

当日作業にあられた、当会員の三井さん、信州大学教育学部・井田研究室の学生のみなさん、ごくろうさまでした。



作業の様子：刈り取ったカヤを束ねて、トラックに積み込みます。

## 編集後記

### 事務局

12月17日、北信濃に一夜にして降り積もった雪は根雪(多分・・・)となり、フィールド活動も一区切りといったところです。飯山市で進めている「生物多様性保全計画策定事業」は、策定委員会を適宜開催し、市民への啓発冊子・「雪国飯山の動植物観察ガイド(仮称)」の発行に向け、当会の井田会長始め識者の方々と協力して内容を検討中です。来年3月に完成を予定していますが、来年度の当会活動にも活用できればと思います。

12月10日、東御市の保護組織「北御牧のオオルリシジミを守る会」の反省会が開催され、当会事務局の福本が出席させていただき、こちらの活動の様子などもお話ししてきました。

「北御牧の・・・を守る会」では、会長の小山剛さん(農家の方で、飼育にも熱心です。)、事務局の清水敏道さん(東御市教育委員会・保護活動の司令塔です。)、研究者の西尾規孝さん(研究記録集「北御牧のオオルリシジミ」を自费出版されました。写真すばらしいです・・・。)たちが組織をまとめあげ、地域ぐるみの保護活動として成果をあげてくれました。関係の方々の熱意には、敬服するところですが、我々もそのノウハウを参考にさせていただきながら、また、連携して活動を進めていければと思います。

では、みなさま。良いお年を・・・来年もよろしくお祈いします。

|  |                  |
|--|------------------|
| 発行者：北信濃の里山を保全活用する会                     | 会長 井田秀行          |
| 事務局：〒389-2253                          | 飯山市大字飯山1436-1    |
|  | 飯山市公民館内          |
| TEL：0269-62-3342                       | FAX：0269-62-5940 |
| E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp |                  |
| 編集者・事務局長：福本匡志                          |                  |